

2009年度 統計関連学会連合大会

市民講演会

日時： 2009年9月6日(日) 16:00~18:30

場所： 同志社大学 今出川キャンパス

テーマ： 学力調査と統計

～全国学力・学習状況調査の現状と統計的側面からの検討

講演者：

- 1) 藤井 宣彰 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部)
「全国学力・学習状況調査の概要」
- 2) 盛永 俊弘 (京都府向日市立西ノ岡中学校)
「全国学力・学習状況調査の意義と活用法」
- 3) 土屋 隆裕 (統計数理研究所)
「全国学力・学習状況調査の分析と活用」
- 4) 安野 史子 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部)
「大規模調査の今後の展望」

企画・司会：

林 篤裕 (九州大学 高等教育開発推進センター)

開催趣旨：

国際的な学力調査として、経済協力開発機構(OECD)の実施している学習達成度調査(PISA)や国際教育達成度評価学会(IEA)が実施している国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の結果から、近年日本の子ども達の学力が低下しているのではないかという問題が指摘されています。

この流れを受けて、平成19年4月から文部科学省では、「全国学力・学習状況調査」を開始し、今年4月には3回目を実施されました。この調査は小学校6年生と中学校3年生の全員を対象とするもので「悉皆調査」と呼ばれます。当初から調査の設計や、得られたデータをどのように教育現場にフィードバックするか等、種々のフェーズに対して議論があり、現在でも多くの国民が関心を持っている調査でもあります。今年4月の実施結果については先週8月27日に公表されましたので、新聞報道等でご存知の方もいらっしゃるのではないかと思います。

今回の市民講演会では、この「全国学力・学習状況調査」を素材に統計的な側面から、学力調査の役割や課題、活用方法についての議論を深めてもらおうと考えて企画しました。学力調査にまつわる設計から調査実施、解析に至るまでの種々の作業について、最新の研究成果を識者や専門家に解り易く講演していただきます。皆様のご議論の参考にしていただければ幸いです。